

～国際的に活躍する名手たちが、3年ぶりに水戸に集結！～  
水戸芸術館・専属楽団「新ダヴィッド同盟 第6回演奏会」

水戸芸術館では、日本を代表するヴァイオリニストの一人、庄司紗矢香を中心に結成された専属楽団「新ダヴィッド同盟」の演奏会を2021年2月21日に行います。第6回を迎える今回の演奏会では、晩年のモーツァルトが綴った弦楽三重奏の名作〈ディヴェルティメント 変ホ長調〉と、20代のブラームスの情熱がほとばしる〈ピアノ四重奏曲 第1番〉という大作2曲が取り上げられます。

つきましては、ぜひ貴媒体にて広くご紹介いただきたく、お願い申し上げます。

**新ダヴィッド同盟 第6回演奏会**  
**2021年2月21日(日) 14:30開場・15:00開演**

会場：水戸芸術館 コンサートホールATM

【出演】 庄司紗矢香(ヴァイオリン)  
磯村和英(ヴィオラ)  
石坂団十郎(チェロ)  
小菅優(ピアノ)



2017年の演奏会より

【曲目】( )内は各曲の演奏者

モーツァルト：ディヴェルティメント 変ホ長調 K.563 (庄司紗矢香、磯村和英、石坂団十郎)

ブラームス：ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 作品25 (庄司紗矢香、磯村和英、石坂団十郎、小菅優)

【料金】全席指定／S席 6,000円、A席 5,000円、B席 4,000円、U-25 (25歳以下) 2,000円

【チケット発売日】一般発売 2020年12月19日(土) 9:30～

【チケット取り扱い】水戸芸術館(開館時間：9:30～18:00／休館日：月曜日、年末年始12月26日～1月4日)

[電話] チケット予約センター Tel.029-231-8000

[窓口] エントランスホール内チケットカウンター

[WEB] <https://www.arttowermito.or.jp/ticket/>

「新ダヴィッド同盟」について

2010年、吉田秀和・初代水戸芸術館館長の命名により当館の専属楽団として結成。ロマン派の作曲家シューマンが真の芸術創造をめざし構想した「ダヴィッド同盟」の精神を現代によみがえらせようと名付けられた。ヴァイオリニスト・庄司紗矢香を中心としたメンバーは、世界各地から水戸に集まり、密度の濃いリハーサルを徹底的に行って演奏会に臨む。

\*お問い合わせ\* 企画について：水戸芸術館音楽部門 (関根) Tel.029-227-8118

ご掲載について：水戸芸術館広報係 (鴨志田) Tel.029-227-8111

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町 1-6-8 <https://www.arttowermito.or.jp/>

## 出演者プロフィール



庄司紗矢香（ヴァイオリン）

「絶大なスタミナと何事にもひるまない精神、希有な音楽家」とグラモフォン誌に評された庄司紗矢香は、ユーリ・テミルカーノフ、ズービン・メータ、ジャンンドレア・ノセダ、マリス・ヤンソンス、パーヴォ・ヤルヴィ、ヴラディーミル・アシュケナーズなどの指揮者や、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団、マリンスキー劇場管弦楽団、NHK 交響楽団、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団といった世界を代表するオーケストラと共演を重ねている。2019/20 年シーズンは、エサ＝ペッカ・サロネン指揮フィルハーモニア管弦楽団との日本ツアーや、クレーヴランド管弦楽団、ユーリ・テミルカーノフ指揮サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団などと共演。その他、ジャンルカ・カシオーリとベートーヴェンのピアノとヴァイオリンのためのソナタ全集を録音。今シーズンはニコラ・アンゲリッシュとモディリアーニ弦楽四重奏団と共に室内楽のコンサートを行う。1999 年にパガニーニ国際ヴァイオリン・コンクールで最年少および日本人として初めて優勝。2010 年芸術選奨新人賞、2016 年毎日芸術賞を受賞。使用楽器は、上野製薬株式会社より貸与された 1729 年製ストラディヴァリウス “レカミエ (Recamier)” である。



磯村和英（ヴィオラ）

桐朋学園でヴァイオリンをジャンヌ・イスナール、小林健次、室内楽を齋藤秀雄に学び、1968 年よりニューヨークのジュリアード音楽院に於いて、ヴァイオリンをイヴァン・ガラミアン、ヴィオラをウォルター・トランプラー、室内楽をロバート・マン、ラファエル・ヒリヤーに学ぶ。69 年秋、桐朋、ジュリアードを通じての仲間とともに東京クワルテットを結成。70 年、ミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門で 1 位となり、国際的な注目を集めた。同年秋に、ニューヨークでデビューリサイタルを行う。以後、クワルテットと共に 44 年にわたり、ニューヨークを拠点に世界各地で演奏活動が続けた。室内楽の指導には長年積極的に取り組み、イエール大学で教鞭をとる他、アメリカ、ヨーロッパ、日本で数多くの室内楽講座を行う。東京クワルテットのレコーディングは、グラモフォン年間最優秀室内楽賞等受賞した録音も数多く、グラミー賞には 7 回ノミネート。磯村個人としても、ヴィオラ・ソロとソナタの CD をリリースしている。2013 年外務大臣表彰、2014 年アメリカン・ヴィオラ・ソサエティーよりキャリア・アチーブメント賞を授与された。現在、桐朋学園特命教授、サントリーホール室内楽アカデミーのファカルティを務める。



石坂団十郎（チェロ）

ドイツ人と日本人の両親を持つチェリスト石坂団十郎は、ミュンヘン国際音楽コンクール、ルトスワフスキ国際チェロコンクール、エマニュエル・フォイアマンコンクールなど数多くの国際コンクールで優勝、ヨーロッパ・ドイツを拠点に世界各国で演奏活動を繰り広げる。クリストフ・エッセンバッハ、ロジャー・ノリントン、パーヴォ・ヤルヴィらの指揮者と共演し、近年ではバイエルン放送交響楽団、ウィーン交響楽団、シンガポール交響楽団、香港フィルハーモニー管弦楽団、NHK 交響楽団、読売日本交響楽団などよりソリストとして招かれる他、シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン音楽祭、BBC プロムス、香港室内楽音楽祭など世界各国での音楽祭にも出演。デビュー CD 「チェロ・ソナタ」は「エコー・クラシックアワード」を受賞。公益財団法人ソニー音楽財団「齋藤秀雄メモリアル基金賞」、グラモフォン・アワード 2014 室内楽部門受賞。ドイツ・ベルリン芸術大学及びスイス・バーゼル音楽院教授として後進の指導に積極的に取り組む一方、世界各国での演奏活動はオーケストラとの共演、ソロ活動の他、室内楽の分野など多岐に渡る。



小菅優（ピアノ）

高度なテクニックと美しい音色、若々しい感性と深い楽曲理解で最も注目を浴びている若手ピアニストの一人。9 歳より演奏活動を開始、2005 年カーネギーホールで、翌 06 年にはザルツブルク音楽祭でそれぞれリサイタル・デビュー。ドミトリエフ、デュトワ、小澤征爾等の指揮でベルリン響、フランクフルト放送響、シュトゥットガルト放送響、サンクトペテルブルク響、フィンランド放送響と共演。最近ではノット指揮スイスロマンダ管と共演。2010 年から 15 年にはベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲演奏会を東京、大阪で行い各方面から絶賛を博した。さらに現在はソロだけでなく室内楽や歌曲伴奏を含む、ベートーヴェンのすべてのピアノ付き作品を徐々に取り上げる新企画「ベートーヴェン詣」に取り組んでいる。17 年からは 4 つの元素「水・火・風・大地」をテーマにした新リサイタル・シリーズ『Four Elements』に取り組む 20 年秋に最終回を迎えた。録音はソニーからの「ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ全集」、小澤征爾指揮水戸室内管弦楽団との「メンデルスゾーン：ピアノ協奏曲第 1 番他」を含む 15 枚の CD をリリースしている。第 13 回新日鉄音楽賞、04 年アメリカ・ワシントン賞、第 8 回ホテルオークラ音楽賞、第 17 回出光音楽賞を受賞。14 年第 64 回芸術選奨音楽部門文部科学大臣新人賞、17 年第 48 回サントリー音楽賞受賞。